

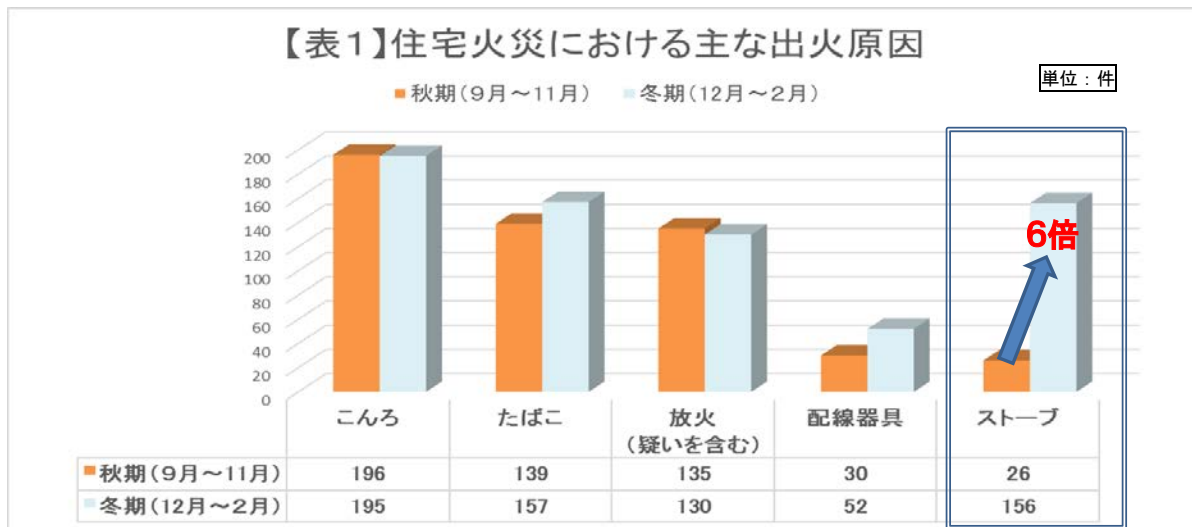
ストーブ火災に注意!!

～寒さが本格化する冬に増加しています～

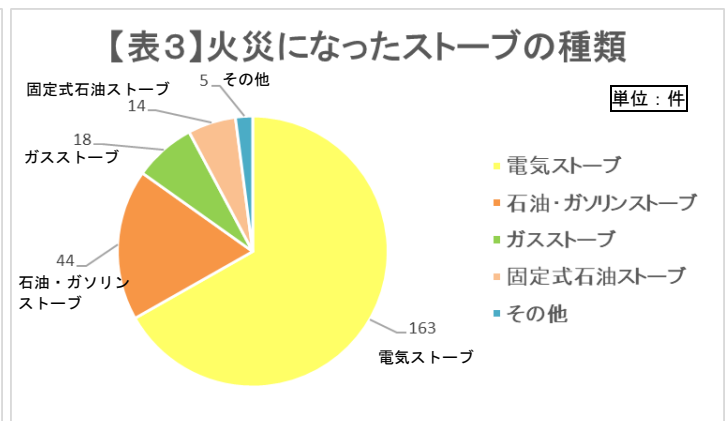
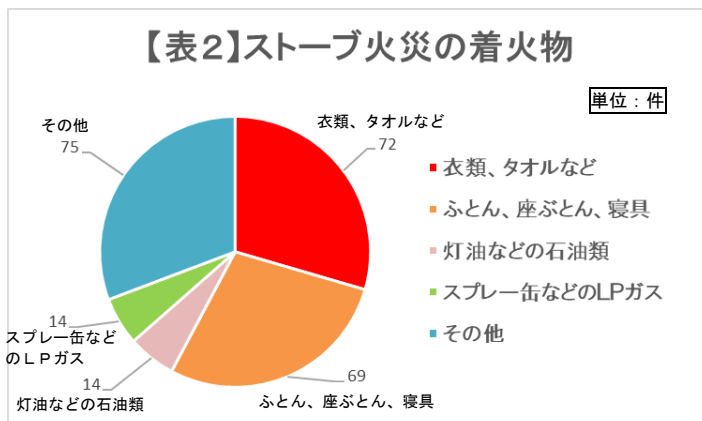
寒さが本格化するこれからの季節、ストーブ等の暖房器具を使用する機会が増えてきます。

- ◆ストーブ火災は秋期（9月～11月）と比べて冬期（12月～2月）に多く発生しています。（表1）
 - ◆衣類やタオル、ふとんなどがストーブに接触する火災が多く発生しています。（表2）
 - ◆ストーブ火災のうち、電気ストーブの火災が多く発生しています。（表3）
- ※ストーブ火災とは、電気ストーブ、ガスストーブ、石油・ガソリンストーブ等に起因する火災をいいます。

過去10年間で、住宅火災の最も多い出火原因は、「こんろ火災」ですが、「ストーブ火災」は秋期と比べて冬期は130件多くなっています。【表1】



※秋期は、平成21年～平成30年の9月～11月 累計
 ※冬期は、平成21年～平成31年の12月～2月（平成31年1月～2月は速報値）累計



※平成21年～平成30年の住宅火災におけるストーブ火災

裏面あり

ストーブによる火災の主な事例と防ぐためのポイント

○衣類やタオル

ストーブの近くに干していた洗濯物（衣類やタオル）に着火し、出火する火災が発生しています。



ストーブの上に干された洗濯物が..



ストーブの上に着下



そのまま時間が経過して



出火

火災を防ぐポイント

- ・ ストーブの上方や近くに洗濯物を干すことは危険です。
- ・ ストーブの周りは常に整理整頓しておきましょう。

○ふとん・座ぶとん・寝具類

ふとんや座ぶとんがストーブに接触して着火し、出火する火災が発生しています。



布団の真横で
電気ストーブを使用

製品評価技術基盤機構（nite）
より写真提供

寝てしまい、寝返りを打
った時に、布団がストーブに接触



一定時間経過後、ストーブと
の接触部分から出火

火災を防ぐポイント

寝る時やその場を離れる時は、電気ストーブやファンヒーターなどは必ずスイッチを切り、プラグをコンセントから抜く習慣をつけましょう。

住宅用火災警報器は定期的に点検・交換しましょう。

住宅用火災警報器は、火災の早期発見に非常に有効です。しかし、住宅用火災警報器が設置されていたにもかかわらず、火災を感知できなかった事例が発生しています。

〈考えられる理由〉

- 1 設置から長い期間が経過して、電池が切れていた。
- 2 住宅用火災警報器の故障に気が付かなかった。

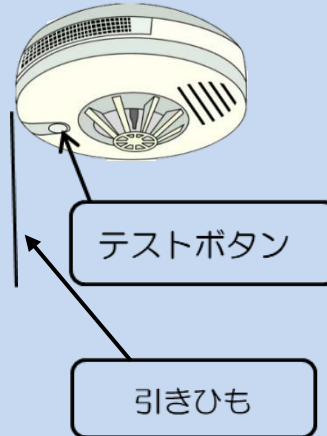
有効に作動させるために…

- ・ 設置から 10 年たったら取り換える。
- ・ 定期的に点検をする。

点検方法

- ・ テストボタンを押したり引きひもを引っ張ります。
- ・ 警報音（ブザーや音声）を確認します。

※警報音はすぐに止まります。



横浜市消防局
マスコット
キャラクター
ハマくん

お問合せ先

消防局予防課長 和知 治 Tel 045-334-6601